

第3節 地域で支え合う温もりのある福祉社会づくり

◆ 計画がめざすまちの姿 ◆

『地域では、住民同士の交流の機会や場が持たれ、隣近所で人と情報の結びつきが強くなってきています。そしてこれらの結びつきが活かされ、多くの住民が福祉活動に携わり、みんなで支え合う地域福祉社会が構築されています。』このようなまちをめざしていきます。

◆ 施策の体系 ◆

【基本施策】 地域で支え合う温もりのある福祉社会づくり

【施策】 地域福祉の推進

◆ 目標指標 ◆

指標名	現状値	目標値	
	平成21年度	平成27年度	平成32年度
登録ボランティアの数	31グループ 758人	36グループ 800人	39グループ 810人

◆ めざすまちの姿を実現するためのパートナーシップ ◆

- 主に行政は、住民による地域福祉活動が円滑に実施されるよう、関係機関と連携し、情報提供や人材育成などの側面支援に努めます。またパートナーシップとして住民は、住民同士の交流機会を設けるとともに、地域の見守り活動やサロン活動などの地域福祉活動に協力・参加していきます。
- 主に行政は、高齢者や障害のある人など、災害時に援護を要する人が円滑に避難できるよう、関係機関・団体などと連携し体制づくりに努めます。またパートナーシップとして住民は、隣に住む人を把握するなど、いざというときに助け合える関係をつくっていきます。
- 主に行政は、国民健康保険の健全運営のために、保険税の見直しや医療費の適正化に努めます。またパートナーシップとして住民は、保険税を滞りなく納付するよう心がけるとともに、日頃から健康づくりに取り組んでいきます。

1 地域福祉の推進

基本方針

複雑・多様化する福祉課題や地域課題に対応するため、住民、地域の各種団体、関係機関、行政などが連携しながら、地域で支え合い・助け合える仕組みをつくりともに生き、支え合う社会をめざします。

(1) 現状と主要課題

- 都市化や核家族化の進行により、地域のつながりが希薄になってきています。
- ひとり暮らし高齢者など、支援を必要とする人が増加するなか、多様な福祉ニーズについて公的な福祉サービスでは対応できないケースも生じており、身近な地域での地域福祉活動の必要性が増しています。
- 本町では、コミュニティソーシャルワーカー※を配置するとともに、町を6地区に分け、「地区福祉委員会」を立ち上げ、活動への支援を行っています。
- 住民同士の助け合いや支え合いを進めていくうえでは、日常生活における「見守り活動」への支援をはじめ、災害時における要援護者の把握と要援護者マップを作成し、支援を行っています。

※コミュニティソーシャルワーカー：地域において支援を必要とする人々の生活圏や人間関係など環境面を重視した援助を行うとともに、地域を基盤とする活動やサービスを発見して支援を必要とする人に結びつけることや、新たなサービスの開発や公的制度との関係の調整などを行う専門知識を有するものこととをさす。

(2) 主要な取り組み

● 地域福祉意識の向上

住民の福祉に対する理解を深めるとともに福祉活動への参加を促し、地域でともに支え合い・助け合うといった意識を高めます。

● 福祉コミュニティづくりの推進

自治会などの地縁的な組織にとらわれず、地域の課題を地域に暮らす住民が参加・協力して解決していく福祉コミュニティを関係機関・団体等と連携し、住民との合意形成を図りながら構築することに努めます。

● 地域福祉推進体制の充実

住民一人ひとりの自立を地域社会全体で支援するため、「豊能町地域福祉計画」に基づき、身近な地域で福祉課題を把握し、解決する住民福祉活動を基礎としつつ、自助・共助・公助の有機的な結合を図ります。

● 協働による地域福祉活動の推進

ボランティア団体をはじめ、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、地区福祉委員会などと協働し、「さりげない見守り活動」の推進や、要援護者の把握と要援護者マップの作成を進めます。